

Dio110の車体の開発目標は、日常使用での優れた快適性、利便性向上を目指し下記を設定しました。

軽量・コンパクトな車体にゆとりの居住空間とさらなる利便性を実現

ライディングポジション

Dio110はコンパクトなサイズとしながらも、フロア前端の幅を広くすることで、足位置の自由度を確保し、ゆったりしたポジションをとれる快適な居住性としました。

シート高を下げ(従来モデルに対し-5mm)、フロア後端の幅を狭めることで、ライダーの足着き性を向上させると共に 最低地上高は10mm上げ 車庫入れ等での段差乗り越えも、より楽になりました。

フレーム

フレームの剛性を確保しつつ、パイプ構成の全面見直しを行い、軽量化(完成車で従来モデルに対し約-3kg)を図りました。これにより完成車重量の軽減や燃費向上だけでなく、ハンドリングフィールの向上などに貢献しています。

メットイン・スペース

スリムな車体と低シート化を図りながら、エンジン搭載位置の最適化と、各 부품の最適配置により、シート下にフルフェイスヘルメットが収納可能な容量18L[※]のスペースを確保しています。

※Honda調べ



■メットイン・スペース

コンビブレーキ

より安心感ある走りを目指し、Honda独自の前・後輪連動ブレーキシステム(コンビブレーキ)を採用しています。また、フロントにはディスク径φ190mmのディスクブレーキを装備しています。

14インチ大径ホイール

フロント、リアともに走破性の高い14インチ大径ホイールを継続採用しました。



■14インチ大径ホイール